

定期考査前「学びの基礎体力」を今、鍛えるチャンス！

コロナ禍の中、いつもとは違う日常が続いている。

短すぎる夏休みが終わり、来週は、定期考査が行われる。

先週、3年生の生徒、保護者対象の後期課程説明会があった。私の方から、特に3年生のみなさんに伝えたのは、自己調整学習能力をしっかり身に付けるということである。

「自己調整学習能力」とは、「自分に必要なことを見極め、自分に合ったやり方、方法で、自分に適したペースで学習する力」である。

- ① 今回の定期考査に向けて、自分が何をやるべきかを具体的にリストアップできているか？あるいは、それを洗い出すためのスクリーニングとなる学習を位置付けていたか？学習する上で、まず必要なのは目的である。定期考査の目的は、範囲の学習内容を確実に身に付けることが基本である。広範囲であっても、すべて授業等で学習した内容である。それが身に付いているかどうか、モニタリングすることが必要である。そして、弱いところや理解が不十分なところ補い、自分なりに納得のいく学びへと変えることが重要である。
- ② あなたは、どういう学習の仕方が自分に合っているだろうか？教科書をくりかえり読むことで、覚えたり、理解を深めたりするというやり方、まとめのノートなどを作り、自分で再構成することで自分の知のネットワークに組み入れるというやり方、単語カードなどで繰り返し細切れの時間も無駄にせず、覚えるというやり方、問題集をひたすら次々と解いていくというやり方、難しい、分からないところを見つけ、友達や先生に質問し、教えてもらうなどコミュニケーションの中で理解していくやり方、このほかにも、ネット動画で学ぶやり方や、WEB問題を活用するやり方、いろいろな方法がある。どんな方法があるかを知り、自分に合った方法を見出すためには、とにかくやってみるしかない。時間は絶対的に必要である。時間をかけるからこそ、やがて、自分に合った効率的な方法を身に付けることができるのである。
- ③ 自分のペース、リズムも大切である。さくさくとスピードをあげて問題を解き、答え合わせの中で、ミスや不十分さをみつけていく人、スピードと量でまずは基礎固めをし、それから難問にじっくりと時間をかけていくやり方、日ごろからこつこつと復習ノートなど自分で再構成し、それを再度見直しながら、教科書を丁寧に、確実に身に付けていくやり方、これも先に示した方法と不可分であり、自分に合ったペースがある。また、俗にいう朝型、夜型のように、いつが自分にとって、一番効果的な学習時間帯か、あるいは、やりたいことや遊びをがまんしてやるというやり方が集中できる人、見たいテレビなどをある程度見て、残りの時間を効果的に使おうという計画の立て方をする人、これも様々であり、絶対これが正しいというものはない。ただし、成長期にある皆さんには、医学的な見地からの生活リズムや心身の影響にかかる知見、脳科学の成果などは、十分に踏まえたペースやリズムを工夫してほしい。

高志中等教育学校では、「自己調整学習者としての自立」を大きな目標に掲げている。先日、河合塾から取材を受けたとき、次のように回答した。

「例えば、大学受験に向けた勉強の、特に最後の追い込みの時期には、与えられた課題を行うだけでなく、自分のやるべきことを、自分にあったやり方で、自分のペースで計画的に学習していく力が絶対に必要ですし、そうした自立した学習者としての力は、大学入学後や社会に出てからも必要となります」

当校では、1, 2年生を「学びの基礎体力づくり」と位置付けている。「学びの基礎体力」とは、大きく3つのことを指す。一つは、「各教科で学ぶ、あるいは教科を越えて必要となる基礎知識や基本技能」である、漢字力、計算力、各教科の基礎基本となる知識や概念理解、技能などである。2つ目は、「より難しい内容を理解するために不可欠となっていく学習量に耐えうる集中力、忍耐力、意欲」である。言い換えれば、「学習量、学習時間を確保し、学習できる力」である。そして、3つ目が、「自分の特性を理解し、自分に合った学習方法を見つけること」である。

3, 4年生は、「基礎体力を駆使して、より高い学習内容を獲得し、さらなる学びに向かうための目的や意欲、方法を獲得する学びの充実期」である。格段に難しくなる各教科の学習内容を受け身でとらえるのではなく、その意味や意義、社会や世界、そして、自分自身の進路と関連づけていく有機的な学習と、自分の可能性をより拓いていく創造的な学びが求められる。基礎学力はもちろん、総合・探究の学習が大きな意味をもつ時期である。

「勉強が面白い！」「将来、こんなことをしたい！」「世の中をよくするには、こういうことが大切ではないか？」など、「志」が、具体的な形となり、自分の学びの核となっていく時期である。

5, 6年生は、いうまでもなく「自分の定めた方向に向かい、全力で突き進む、進路実現のための学びの発展期」である。当校では、5年生の4月の段階で、ある程度具体的な「志望理由書」が書けることが必要であるとしている。つまり、自分の可能性と志をしっかりともち、どこに向かうのかを自覚することができている」ということである。だから、より難易度の高い内容に対しても、明確な目的意識と、学び方をもって立ち向かい、自分の可

能性を最大限に広げ、実現していくことができるのである。

さて、ここで2つのことをみなさんをお願いしたい。

1つは、学習方法の工夫である。当校では、Classiを導入している。大いに活用してほしい。先に述べたように自分に合った学び方は人それぞれである。だから、学習にICTやスマホを活用するかどうかは、最終的に自分で決めればよい。ただ、道具を使いこなすためには、その道具を知らなくてはならない、使ってみなくてはならない。特に前期生のみなさんは、大いに活用してほしい。おそらく、前期生のみなさんが大学受験に向かうとき、CBT（Computer Based Testingの略。問題用紙やマークシートなどの紙を使わず、コンピュータで受験する方式のテスト）が導入される可能性が高い。すでに、来年度より全国学力学習状況調査は、CBTで実施されることになっている。

調べたこと、考えたこと、テスト結果や成績などの記録を一元化して管理し、定期的に振り返り、分析することで、学習成果や自分の成長がわかる。そして、なにより自分に合った方法などを考える材料となるのである。経済産業省は、「未来の教室」という提言の中で、ICTを使い込ませることが、学習の個別最適化につながり、学力格差解消につながるとしている。一斉の講義型授業の限界を、一人一人がICTをうまく活用し、個別最適化学習を進めることで補うことができるとしているのである。Classiに限らず、WEB上にある様々なコンテンツを有効利用すること、いや、できることは、効果的な学習を進める上で大きなアドバンテージとなるであろう。

2つ目は、学習時間である。

1年生：2時間25分、2年生：2時間34分、3年生：2時間51分、4年生：2時間39分、5年生：3時間53分、6年生：4時間4分

これは、Classi上で確認した昨日の学習記録データからみた学年ごとの平均学習時間である。テスト期間中、部活動はない。後期生は、7時間目まで授業があるにもかかわらず、あきらかに学習時間が多い。つまり、できるといことである。個別に見ていくと、平日でありながら、5時間以上学習時間を確保している人も多数いる。前期生諸君は、「すごいなあ」と思うだろうか？ 私は、「当然である」と感じる。自分自身が、中学生であったときのテスト前の学習時間を考えると、平日、5時間は当たり前であり、逆に、どうして勉強しないのか、何をしているのだろうと疑問にすら思う。継続的に研究している内容など、学習時間に含めない人もいるかもしれないが、学習時間には、そうした自分にとって価値ある学びは入れてもかまわない。何をしたかという学習の内容や質が問われるのはあたりまえだが、費やした時間が少ないのでは、内容や質を吟味しても、「学びの基礎体力」はつかない。通学時間や習い事もあるかもしれない。事情はみな違うから一概にはいえないが、中学1年生であっても、テスト前の平日、4時間の学習時間を確保し、集中して取り組めるだけの基礎体力は必要だろう。もちろん、休日は中学1年生であっても、テスト前は10時間くらいできる時間・生活のマネジメント力と、集中力、メリハリをつけた学習方法の工夫をしてほしい。試行錯誤なしに、「自分に合ったやり方」は見つからない。試行錯誤には、絶対的な時間が必要なのである。

高志中等教育学校が目指すのは、たくさん勉強する生徒のいる学校ではない。

有名大学にたくさん進学する学校でもない。

「志の涵養」であり、「高い志」をもって、困難を乗り越え、世界をよりよく変えていくグローバルリーダーを育てる学校である。

「高い志」は、「心躍るわくわくした生き方」であると同時に、「困難な生き方」でもあるだろう。「高い志」を実現し、世界を変えていくためには、たくさんを同時に行ったり、限られた時間の中で、最大限のパフォーマンスをあげたり力が必要になるのである。「自己調整学習能力」の土台には、「学び基礎体力」が不可欠である。

「学びの基礎体力」の重要な柱である「意欲・目的意識」については、また、別の機会に話すことにする。定期考査を効果的に活用し、着実に学習内容を身に付けること、そして、自分自身の適性や方法に関する理解を進められることを期待する。